

令和6年度学位記授与式 学長式辞（令和6年3月18日）

春爛漫の季節となり、今年も新たな旅立ちの日を迎えることになりました。皆さんの努力が結実して学位を取得し、卒業を迎えられましたことを、大学役員、教職員一同心よりお祝い申し上げます。また、ご父母の皆さま方におかれましては、ご子息・ご令嬢のご卒業を心よりお慶び申し上げます。

さて、卒業生の皆さんが本学で過ごされた期間は、新型コロナウイルスの蔓延、ロシアによるウクライナ侵攻と戦争の長期化、イスラエル・ガザ戦争の勃発と激化、気象変動や地震などの自然災害による大きな被害の多発など、重大な問題が次々と起こりました。また、この間に普及した生成AIは、雇用や仕事の内容に大きな変化をもたらすのではないかと注目されています。おそらく社会は、今まで以上に予測困難な激しい変化を遂げていくことになると思われます。本学において、駿大社会人基礎力並びに専門的知識や技能の活用力を磨き、身につけてきた皆さんは、こうした能力を土台にして、今後とも、この社会を力強く生き抜いていくために、学び続けていかなければなりません。

それでは、何を学べばよいのでしょうか。社会人となる皆さんは、何をにおいてもまず、毎日の仕事をこなすために必要な知識やノウハウを身につける必要があります。これは、それぞれの職場の中で訓練し、修得していくことになるでしょう。もちろん職場は、楽しいことばかりがあるわけではありません。意に沿わない部署に配属されたり、単調な作業に飽き飽きしたり、とてもかなわないと思われる先輩や同僚との距離に悩んだり、いろいろな苦労もあるかと思います。しかし、焦ることはありません。どんな時でも腐らず、くじけず、目の前の仕事に何か改良の余地はないものかと少しずつ工夫してみることが大切です。そうした毎日の前向きな、小さな努力が、必ずや皆さんに実り豊かな将来をもたらしてくれるものと信じています。

同時に、皆さんには、すぐに仕事の役に立つとは思えないさまざまな分野、例えば歴史、文学、美術、音楽、スポーツ、演劇、映画などについても、興味を持って、時に趣味として楽しみながら学び続けていただきたいと思います。これらの分野を学び、楽しむことは、人生を豊かなものにするとともに、独創性、イマジネーション、先見性、バランス感覚などを生み育て、仕事などを取り巻く情勢に大きな変化が起きた時に、自らの判断と決断によって対応する力を培うことにつながると思うからです。

また、社会に出れば、国籍、価値観、年齢、習慣などが異なる多様な人々と接し、ともに活動していく機会がさらに増えます。分断や対立からは、何も生まれません。お互いの違いを認め合いながら、人間としてよりよい協力関係を築き上げていくことが大切になります。どうか相手の立場を尊重し、お互いを高めあう努力を根気強く続けてください。

本日から皆さんは、本学の同窓生としての活躍が始まります。これからは、母校の発展のためにお力添えをいただけたらと思います。成長した皆さんにお会いできる日を楽しみにしています。何よりも、お体には気をつけてお過ごしください。駿河台大学は、皆さんをいつまでも応援しています。

本日は、まことにおめでとうございます。

令和6年3月18日
駿河台大学 学長 大森一宏